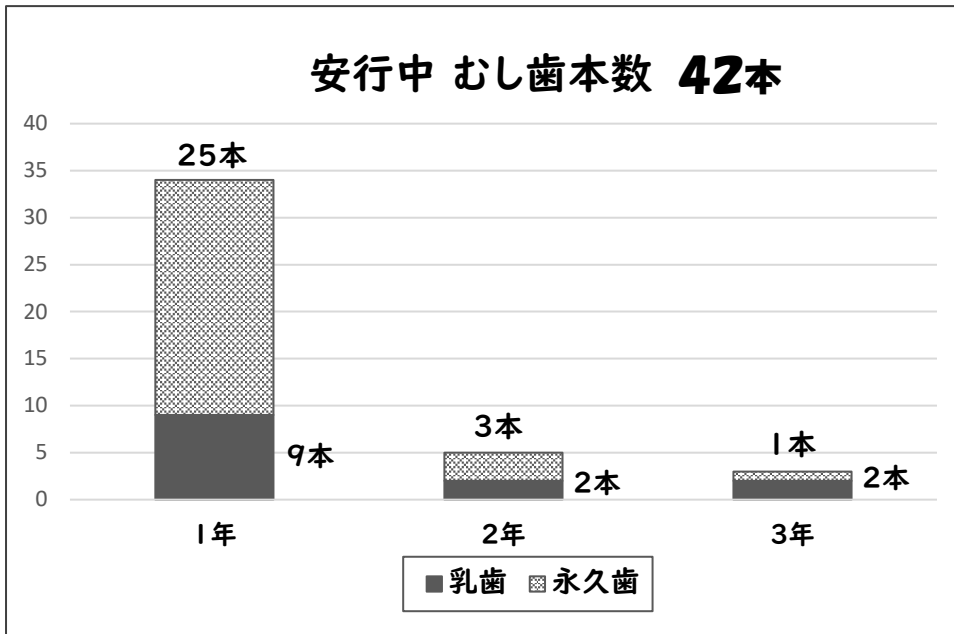


令和7年度 歯科健診結果

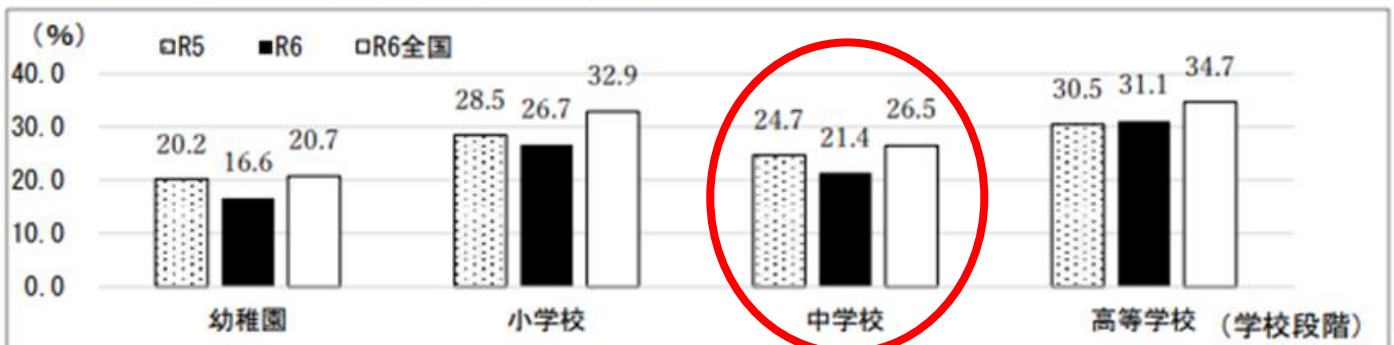
《 春の歯科健診結果 》



安行中のむし歯(乳歯・永久歯)の保有者の割合は、**3.9%**(昨年度5.2%)でした。(※検査人数689名、むし歯保有者27名)割合は、昨年度よりもかなり減りましたが、複数本むし歯を保有している人がいたので、むし歯本数は増加しました。(昨年度36本)

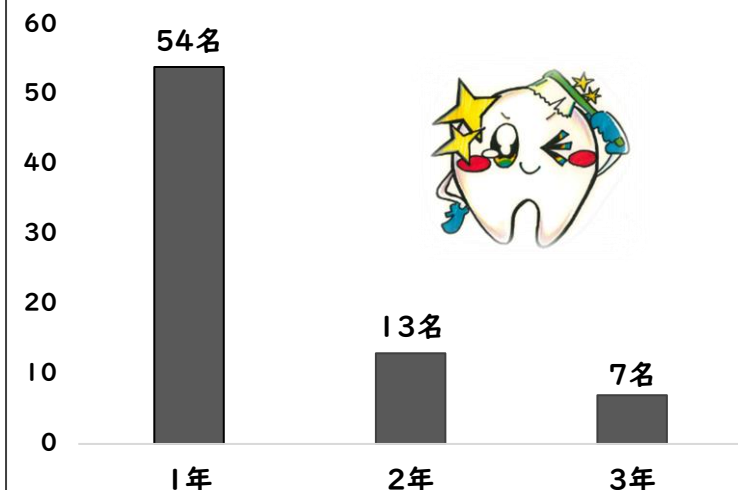
令和6年度の埼玉県学校保健統計調査(下記参照)では、むし歯の保有者の割合は、中学校は**21.4%**、全国学校保健統計では**26.5%**となっており、このことから安行中生徒のむし歯の割合が低いことがわかります。

学校段階別むし歯(う歯)の者の割合



【令和6年度埼玉県学校保健統計調査結果より】

【 受診が必要な人の人数 】 74名



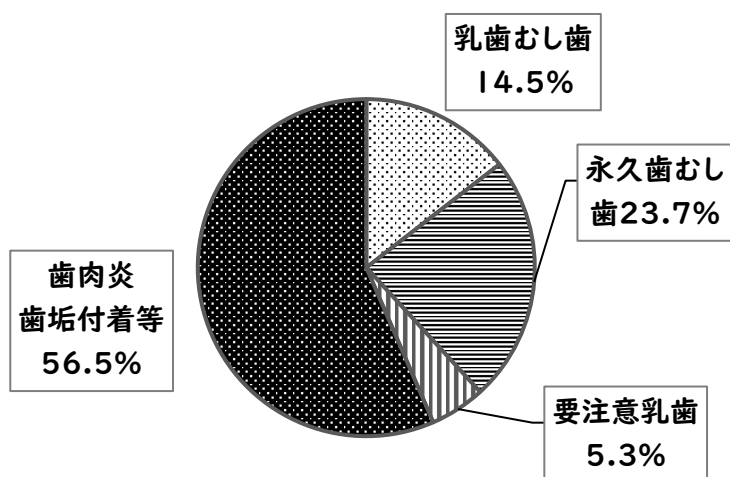
《検査人数 689名》

受診が必要な人は、74名で、全体の**10.7%**(昨年度10.1%)でした。昨年度より若干増加しましたが、とても素晴らしい結果です。

※受診が必要な生徒とは、むし歯、要注意乳歯がある児童、また顎関節、歯列、歯垢付着、歯肉の状態が「2」の生徒です。

※「2」の状態とは、より専門的な診査が必要な場合です。

要受診の内訳

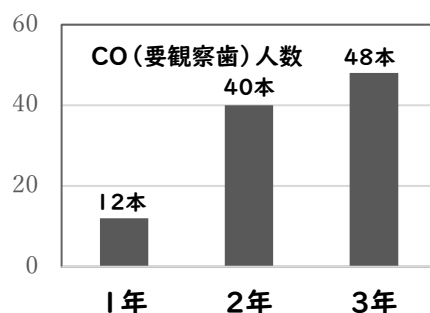


要受診の内訳は、歯肉炎・歯垢付着等が56.5%、乳歯・永久歯のむし歯が38.2%でした。昨年度は、歯肉炎・歯垢付着等が34.3%、乳歯・永久歯のむし歯が51.4%でしたので、逆転した形となっています。

むし歯は年々減少していますが、歯肉炎・歯垢付着等は増加傾向にあります。特に今年は、昨年と比べるとかなり増加しました。やはり、口腔内疾病等や歯垢付着の指導を更に強化していく必要があります。

～CO(要観察歯)について～

歯科健診の結果を見ると、CO(要観察歯)が多いことも気になるところです。COは、「むし歯によって生じた穴などはないが、褐色や黒色、白く濁ったところがある」、「歯の内部まで深く入り込んでいない初期のむし歯」と言われています。むし歯へと悪化しないように、進行を止めることが必要です。ていねいな歯みがきはもちろんですが、定期的に歯科医へ受診することがとても重要です。



～保健室から～

歯科学校保健委員会の開催は、今年で4年目になります。学校・家庭・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・地域と連携し、歯・口の健康課題解決のために、どのような実践活動が必要なのか、考え・協議する大変意義のある場となっています。今年度は、「歯・口からはじめる健康づくり～健康な歯を未来へつなげよう～」をテーマとし、学校歯科医の田上浩三先生に講話をいただきます。田上先生には、毎年講話をお願いしており、多大なるご協力をいただいております。その他に、春の歯科健診の結果、保健委員会では「口腔内の酸とアルカリ、酸蝕症」について、グループ学習を行い、意見交換や協議し、まとめたことを発表します。発表の資料は保健委員会執行部の生徒たちが作成しました。お聞きいただき、ご家庭でのホームケアに役立てていただけたらと思います。

昨年度は、令和6年度全日本学校歯科保健優良校表彰において文部科学大臣賞にあたる優秀賞を受賞しました。全国の中学校では唯一、安行中学校が選ばれました。また、埼玉県学校歯科保健コンクールにおいては「最優秀校」に選ばれました。（令和5年度も「最優秀校」に選ばれており2連覇となりました）そして、今年度は広島県と神奈川県で、安行中の歯科保健の取組や成果を発表する機会をいただきました。その際の資料等は、ご家庭に発信できればと思っております。これまでの受賞は、歯科健診の結果やむし歯治療率、学校歯科医による取組（田上先生による歯科保健授業や歯みがき教室等）、また、生徒が普段から当たり前のようになっている給食後の歯みがきや保健委員会の取組、そして、ご家庭での歯科に関する意識の高さが評価されたものだと思います。ご協力いただき、本当にありがとうございます。

歯・口の健康は全身の健康の原点、ひいては豊かな学校生活の基盤でもあります。これからも学校・家庭・地域が一体となって、生徒の「笑顔」を見守り、未来へ繋げる歯科保健教育を推進していきたいと思っております。